

営農だより 野菜版 13号

JAふじ伊豆 御殿場営農経済センター
2022年(令和4年)10月5日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

サツマイモの収穫・貯蔵

収穫適期：植え付け後、約110～150日
収穫時期：10月～11月上旬

1. 試し掘り

品種によって異なるが一般的な収穫サイズは、長さ25cm前後、直径7cm程度。収穫適期を見極める為、収穫目安の1ヶ月ほど前に『**試し掘り**』を行う。
(※実が大きく育ち過ぎてしまったサツマイモは、色や形が悪くなり甘みが少なく食味が落ちるので、注意が必要)

2. ツル刈り

地面を覆うように茂ったツルは収穫の時に邪魔になるので、**地面から4～5cm程の高さのところを収穫前に切る。**

3. 掘り取り(収穫)

スコップ等を使ってまわりを掘り起こして収穫する(※いきなりスコップを土の奥まで刺すのは避ける)。
まずはサツマイモの周りの土を柔らかくし、スコップで地面近くを掘ってから手袋等をはめた手で掘る。

＜収穫時の注意点＞ ②：雨の後の収穫は避ける

湿気に弱く、水分がつくと腐りやすくなるうえ保存性も低下する。雨が降った場合は収穫日をずらす。土が乾いていることが絶対条件で、可能であれば晴れの日が2～3日続く日に収穫する。

＜貯蔵・保存のポイント＞ ②：貯蔵適温は13℃前後

収穫して約1～2週間後からデンプンがゆっくり糖に変換され、更に数ヶ月かけてより甘さが増すといわれている。正しい方法で保存できれば甘さも増し、その後約3ヶ月間貯蔵可能。収穫後の適切な温度・湿度管理で貯蔵する。
(※10℃以下では糖化が進み腐りやすい。15℃以上では芽が出てきてしまう)

4. 貯蔵(保存)方法

【**天日干し**】収穫後、まず**しっかりと乾燥させることがポイント**。
ツルから切り離し、2～3日かけて乾かす。サツマイモが乾いたら、ついている土を払い落とす。更に1週間日陰干しをすると、より日持ちする。

【**ダンボール保存**】サツマイモは**収穫してからも呼吸をする為**、ビニール袋や発泡スチロールに入れて**密閉すると二酸化炭素でサツマイモが劣化する**。1本1本新聞紙で包み、ダンボールのような**通気性のある箱で保存する**のが良い。

【**水洗いを避ける**】サツマイモは水を嫌い、**一度水分を含むと、とたんに腐りやすくなる**為、**雨の日の収穫・天日干し、土を水で洗い流すのを避ける**。

コンパニオンプランツ(タマネギとソラマメ)

コンパニオンプランツとは植物の組み合わせによって、2種類以上の作物を近傍に栽培することで、互いの成長に良い影響を与え共栄し合うとされている植物のことです。

野菜類等とハーブ類等をうまく組み合わせると病害虫を防いだり、生長を促進したり、収穫量が増えたり、風味や芳香を良くしたり等、様々な良い効果を生み出すとされています。例えばマリーゴールドは線虫に対する殺虫効果を持つ為、作物に対する病害の抑制に用いられています。今回は11月に植え付けを行うタマネギとソラマメの組み合わせについて紹介します。

1. 期待できる効果

タマネギとソラマメは定植時期(一般地で11月頃)と収穫時期(一般地で5～6月頃)がほぼ同じ為、栽培計画が立てやすく、同じ空間を有効的に使い育てることが可能。

①【**生育促進**】タマネギはマメ科の植物と相性が良いと言われている。

冬の間、タマネギとソラマメはどちらも土の中に根を張るので、霜柱が立ちづらくなり寒さのダメージを受けにくくなる。春になり温暖な気候になるとソラマメの根が広がり、新しい根に付く**根粒菌が活発に窒素固定を行い、周りの土を肥沃にする効果**がある。

②【**病気の予防**】タマネギはネギ属で、根に共生する菌が抗生物質を出す為、**ソラマメがかかりやすい『立枯病』などの病気を予防する効果**が期待できる。

③【**害虫の忌避**】春が近づき気温が高くなるとソラマメの先端にアブラムシが大量に付く。そこで**タマネギを混植しておく**と、**アブラムシの天敵(テントウムシやアブラバチ、ヒラタアブ)**などが増え、**アブラムシを捕食してくれる効果**が期待できる。

2. 栽培のポイント

株間は**15～20cm程度**。タマネギ、ソラマメともに**品種は選ばない**のでご自身の播種した品種で試してみてください。

タマネギ、ソラマメの栽培方法につきましては今年度発行の営農だより12、15号を参考にしてください。

3. その他のコンパニオンプランツ

ソラマメとタマネギの他にも相性の良い組み合わせが数多くあります。複雑に見えますが、作物の『科』ごとの傾向を覚えると応用することができます。

科	野菜	性質
アブラナ科	キャベツ、ハクサイ等	キク科、セリ科との混植が害虫防除に効果的。
ウリ科	キュウリ、スイカ等	マメ科と相性が良い。ネギ科と混植して病気予防。
キク科	シュンギク、レタス等	独特な香りで害虫予防。アブラナ科と相性が良い。
ナス科	トマト、ナス等	マメ科と相性が良い。ネギ科を混植して病気予防
ネギ科	ニラ、ネギ等	根につく拮抗菌が一部の病原菌を抑える。

ヨトウムシ対策

～イネ科以外の殆どの植物を食害します。10～11月に幼虫が多発する為、防除をしっかり行いましょう！～

ハクサイやキャベツなど秋冬野菜の結球期は、害虫が多発します。中でもヨトウムシは100種類以上の植物に害を及ぼします。例年は**11月中旬頃まで、暖冬となる場合は12月に入っても確認される**こともあるので、対策を徹底して下さい！

1. ヨトウムシとは？

ヨトウムシとは、ヨトウガの幼虫のこと。ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウのこともまとめて『ヨトウムシ』と呼ぶ。

昼間は土に隠れているが、夜になると活動を開始し、花やつぼみ、葉を急速に食害する。成虫の体長は15～20mmで、黒や灰色をしている。若緑色の幼虫は体長30～50mmで、頭の後ろに黒いまだら模様や体の両側にピンク色の斑点を持つ。

ヨトウムシの卵：成虫が飛んできて**植物の葉に卵を産み付けていくことで発生**。
1匹当たり1,000～3,000粒程の卵を産む為、ふ化すると大量発生する。
卵は直径0.6mm程で、まんじゅうのような形。

ヨトウムシの蛹：幼虫は、昼間は土の中に隠れ、夜になると集団で出てきて食害を及ぼす。
春から初夏と秋に卵を産み付ける。春に産卵した卵は夏になると蛹になり、秋に成虫になる。

ヨトウムシの食害：野菜や花の葉、茎を好んで食べる害虫。
雑食で食欲旺盛、集団で活動する為、野菜の食用部分がなくなる・表皮や葉脈を食べ尽くされる等の被害が出る。
新芽を好んで食べる為、芽を全て食い尽くされて野菜や植物は全く育たなくなり、枯れてしまうことがあるので注意が必要。

2. ヨトウムシの対策法

①作付け前に畑をよく耕す

夜行性で昼間に発見するのは困難。

植物の定植前に畑や花壇をよく耕し、土の中にヨトウムシやその蛹が潜んでいないか確認することが重要。**見つけ次第取り除く**。

②卵はふ化する前に除去

ヨトウガは葉の裏側に卵を産み付ける。

ヨトウガの卵は大きめの黒い粒、ハスモンヨトウの卵は小さめで白い粒。**卵は葉ごと切り取ってふ化する前に除去**する。

③ヨトウガ（成虫）が飛来するのを防ぐ

作物にネットを掛け、成虫が寄れないようにする。**ヨトウガが活発になる春～初夏、秋が有効的**。

④ヨトウムシの糞を見つけたら、捕殺や薬剤で防除

ハクサイなど内側の葉に黒い糞を発見した場合、芯の部分に幼虫がいることが多い為、**生長点までしっかりと点検**する。見つからない場合は、株元を1cm程度掘ると見つかる場合がある。

3. ヨトウムシの防除

ヨトウムシは成虫、蛹になると薬剤が効きにくくなります。幼虫のうちに対策することが最重要です。防除例を掲載するので、参考にして下さい。**作物により登録内容が異なるので使用方法・注意事項を熟読の上、使用して下さい**。

◇アファーム乳剤 《効果・特徴》

- ・作物の生育時期を選ばず、害虫の発生に応じた使用が可能。
- ・ハスモンヨトウ、オオタバコガ等に**速攻効果がある**。
- ・速やかに分解し長く残らない為、害虫に直接散布する。
- ・アザミウマ類、ハモグリバエ、ダニ類等にも効果を示す。
- ・有効成分は自然物に由来し、**作物、環境、散布者に優しい**。

◇トレボン乳剤 《効果・特徴》

- ・ヨトウムシやアブラムシ、コナガ等の幅広い範囲の害虫に有効。
- ・速効性と残効性に優れる。
- ・人や動物に低毒性の殺虫剤で、皮膚・粘膜への刺激性も殆ど無く、害虫の天敵であるクモや鳥類への安全性が高い。
- ・各種の樹木に対して薬害の心配が少ない。

◇プレバソフフロアブル5 《効果・特徴》

- ・チョウ目をはじめ、ハエ目など幅広い害虫に効果を示す。
- ・生育期の**散布処理で約2週間の持続効果**が期待できる。
- ・根からの吸収性に優れる為、育苗期のセルトレイ・ポット**灌注処理により約4週間の長期にわたる効果が期待**できる。

※適応作物への薬害事例はない為、安心して使用可能。

◇オルトラン粒剤 《効果・特徴》

- ・アブラムシ類やアザミウマ類等の吸汁性害虫及びヨトウムシ、アオムシ、コナガ等の食害性害虫も同時に防除可能。
- ・高い浸透移行性により作物の隅々に行き渡り害虫を**ムラ無く防除**。
- ・効果の持続期間が長く、**省力的な害虫防除が可能**。
- ・水利の便が悪い所や施設内でも手軽に使用可能。
- ・優れた殺虫効果と残効性により植穴処理をすることで害虫の初期発生を予防。

【防除例（ハクサイの場合）】**※他品目については使用方法を熟読の上、ご使用下さい**。

薬剤名	対象病害虫	倍率	1a当り 使用量	使用回数	使用時期 (収穫前)	価格(税込み)
アファーム乳剤	ヨトウムシ コナガ、アオムシ	1,000～ 2,000倍	10～30ℓ	3回以内	7日前	2,180円(100cc)
トレボン乳剤	ヨトウムシ、アオムシ アブラムシ類、コナガ	1,000～ 2,000倍	10～30ℓ	3回以内	7日前	850円(100cc)
プレバソフフロアブル5	ハスモンヨトウ ヨトウムシ等	2,000倍	10～30ℓ	3回以内	前日	3,140円(250ml)
オルトラン粒剤	ヨトウムシ ネキリムシ類等	300～600g (1～2g/株)		定植時1回		2,120円(3kg)